

# 平成 29 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■共同研究 4	公益目的事業 11
主査名	藤原章正 広島大学大学院国際研究協力科教授	
研究テーマ	高齢者の自動車運転免許保有の価値に関する研究	
<b>研究の目的：</b> <p>本研究では、自動車の代替手段が十分に整備されていない地方都市等を対象に自動車運転免許の保有の価値を計測することを目的として、以下のサブテーマの研究を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 運転技術評価の専門家のもと高齢ドライバーの運転機能を計測し、免許返納の判断基準について検討</li><li>2. Unmet ニーズに基づく運転免許返納に関する調査を実施し、トリップ発生の価値を計測</li><li>3. 自動運転車両専用に対する社会的受容性についてリスク認知の観点から分析</li></ol>		
<b>研究の経過（4月～3月）：</b> <p>計3回の会議を開催した。1回目は6月27日に広島市にて開催し、アヴィシャイ・シダー教授（イスラエル工科大学）、加藤浩徳教授（東京大学）、藤元秀樹取締役（広島電鉄）に加えて、本プロジェクトメンバーの藤原、力石、福井が本プロジェクトのテーマ1および2に関する話題提供を行った。2回目は8月23日に宮崎市にて開催し、本プロジェクトメンバーの嶋本、広島大学学生の安田（修士2年生）が本プロジェクトのテーマ3に関する話題提供を行った。3回目は11月14日に広島大学にて開催し、安田裕子准教授（立命館大学）に加えて、本プロジェクトメンバーの福井がテーマ1に関する話題提供を行った。</p> <p>上記研究会に並行して自動運転車両に対する受容性調査 [テーマ3]を設計・実施した。また、取得したデータを用いて、高齢者の運転免許返納に関する分析、トリップ発生価値の計測に関する分析、自動運転に対するリスク認知の分析を実施した。</p>		
<b>研究の成果（自己評価含む）：</b> <p>本研究の主要な成果は以下のとおりである。</p> <p>地方都市の中心部と山間部の異なる居住環境に暮らす高齢者とその家族を対象に、高齢者の運転能力診断と診断結果に関する高齢者と家族との話し合いを行ったデータを解析し、高齢者と家族の免許返納に対する意識の変化を把握した。</p> <p>Unmet Needs 概念を導入し、トリップ発生の価値を推計する手法を提案した。具体的には、満たされない活動ニーズを把握するために高齢者の外出行動実態及び Unmet Needs を尋ねる調査を行い、測定された Unmet Needs を目的変数として Ordered Probit Model による分析を行った。ただし、主に貨幣換算のために用いた所得がトリップ発生に有意に影響しないことに起因して、現時点では安定したトリップ発生価値の推定値を得ることはできなかった。</p> <p>Slovic (1987)の研究を参考に、導入形態別・レベル別の自動運転システムに対するリスク認知を把握するアンケート調査を分析した結果、(1)自動運転車に対するリスクは未知であると認知されていること、(2)ハッキングなどの犯罪に利用される可能性があることに恐ろしさを感じる傾向にあることが確認された。</p>		
<b>今後の課題</b> <p>特に研究テーマ(1)、(2)については主にサンプル数の制約及び調査実施上の制約から、信頼できる実証分析結果を得られていない点が問題として残る。今後、アンケート調査を改善する、サンプル数を増やすなど、実証分析の精度を高める工夫が求められる。</p>		